

# 錦町の無形文化財

## 1 球磨神楽

〈国指定重要無形民俗文化財〉  
球磨・人吉地域の43箇所の神社で10月8日～12月15日にかけて奉納されます。面をつけない「直面（ひためん）」が特徴で、以前は33番の演目があったとされますが、現在は17番までが残っています。

## 2 臼太鼓踊り

言い伝えによると相良藩主が武道奨励の目的で始めたもので、源平合戦をかたどるともいわれています。頭一人、関二人、脇二人の基本構成に、垣五人などが加わり、太鼓、鉦を鳴らして乱舞する様は勇壮にして華麗です。

## 福島虎踊り

一武福島地区に伝わる虎踊り。一時途絶えましたが、地域住民が復活させました。五穀豊穡を願う奉納的な踊りと違い、娯楽的要素が強い祝いの踊りで、「虎踊り」と「河合又五郎物語」の二幕からなります。武士一行や田楽売り、茶屋の亭主と娘など総勢20人で演じます。

## 羅生門踊り

昭和初期まで主に祝事の際に踊られていました。平成元年に復活。現在、23分館太鼓踊り保存会のメンバーにより継承されています。鉢巻、袴姿で太鼓と鉦を鳴らしながら軽快な古舞を披露します。「くまもと子ども芸術祭2014」に木上小学校の児童が出演しました。

## 下原女相撲

江戸時代に農業用水路「百太郎溝」の開削工事の休み時間に、女性たちが遊びで始めたのが起こり。現在は下原女相撲保存会により継承され、錦町ふるさと祭りの際に披露されます。

## 下須の建築踊り

戦後まもなく下須建築踊りとして発足し、祝事や催し物の時に踊られていました。当時の建築に関する道具の全てを用い、町長を先頭に各作業工程を再現した踊りで、現在は「七分館建築踊り」として存続しています。



JAPAN HERITAGE

日本遺産

## 相良700年が生んだ 保守と進取の文化

～日本で最も豊かな隠れ里－人吉球磨～



溶け込んでいるのが特徴的です。  
歴史小説家・司馬遼太郎が、その著書『街道をゆく』で、人吉球磨地域のことを「日本でもっとも豊かな隠れ里」と記しています。昔から愛され、守られてきた地域の文化を守りつつも、したたかに先進的な文化を吸収しながら歩んできた相良七百年の歴史ある地に、私たちは住んでいます。

日本遺産人吉球磨公式サイトより

日本遺産に認定された人吉球磨のストーリーの軸となるものが、相良氏による明治維新まで続いた七百年という長きにわたる統治です。同じ領主がこれほど長い間同じ地域を統治した例はとて珍しく、全国でも人吉球磨の相良氏以外には、三例しかありません。その七百年の統治が現在の人吉球磨の地域に遺したものは、有形・無形にかかわらず日本の歴史そのものを語るために重要である文化財群です。しかも、その文化財群が、人吉球磨の現在の暮らしのなかに脈々と受け継がれ、この地域の日常の風景として

文

化庁が平成二十七年に創設した認定制度「日本遺産」。地域の歴史的魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーが各地で認定されました。その中で、熊本県の第一号として人吉球磨地域が全国十七地域とともに選ばれました。

